

白山判官堂湿原の動物相

上馬 康 生 石川県白山自然保護センター
富 沢 章 石川県ふれあい昆虫館

FAUNA OF HANGANDOU MOOR IN MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Akira TOMISAWA, *Ishikawa Insect Museum*

はじめに

白山判官堂湿原のトンボ類を中心とした動物相の調査を2007年に初めて実施し、昆虫類8種、両生類2種、鳥類5種を記録した(上馬・佐川, 2007)。今回改めて調査し新たな知見を得たので報告する。一部のトンボ目幼虫を同定していただいた福井県の和田茂樹氏、調査に同行し湿原の分類について教示いただき、カオジロトンボの白山での新たな目撃記録を提供していただいた白井伸和氏に厚くお礼申し上げます。

調査方法

調査は2008年7月23日に行い、当日の天候は晴れであった。調査場所の位置や植生は上馬・佐川(2007)に記載のとおりである。湿原は標高約1,400mに位置し小さな沢の東西に分かれて2か所あり、東方の湿原(以下、東とする)と西方の湿原(以下、西とする)があるが、今回も両方の湿原で約1時間ずつの調査を行なった。前回より細かい1mmメッシュのタモ網で水生昆虫を、捕虫網で湿原を飛翔するトンボ類やガ類を採集した。他の動物については目視および声で確認できたものを記録した。

結果および考察

今回の調査で昆虫類ではトンボ目9種、カメムシ目5種、コウチュウ目3種、チョウ目1種、両生類で3種、鳥類で9種、哺乳類で2種が記録できた。トンボ類としてはキイトトンボが東方の湿原(東)

で数個体観察され、雄1を採集した。県内に広く分布するが、この場所は最も高標高地の記録であり、幼虫は見つかっていないが成虫が数個体いたことから当湿原に定着しているものと推定される。エゾイトトンボは交尾個体を含め個体数が多く雄5・雌3(東、西)を採集した。発生期は低標高地より約1か月半遅く7月下旬が発生盛期と考えられる。アオイトトンボは雄2・雌2・幼虫7(東、西)を採集した。成虫は羽化後間もない未熟個体がほとんどで発生初期であり、羽化直前の終令幼虫が多数得られた。ルリボシヤンマは雄1・雌1・幼虫5(東、西)を採集した。雄のパトロール個体や羽化直後の雌が散見された。ネキトンボは連結個体を含め数個体が観察され、雄1(西)を採集した。本種は近年、低地において増加しているが、県内における最も高標高地の記録である。幼虫は見つかっていないが当湿原に定着している可能性が高い。カオジロトンボは交尾個体を含め多数観察され幼虫も多数見付き、雄5・雌2・幼虫6(東、西)を採集した。2007年にも多く見つかっており、エゾイトトンボとともに当時期における優占種である。白山山系では他に清浄ヶ原(富沢, 2001)、赤兎山(福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会, 1998)、小椋平(2007年8月16日、白井伸和、私信)において記録されているが、赤兎山では近年見つかっていない。この他にオオルリボシヤンマ幼虫3(東、西)、カラカネトンボ雄2(東、西)、アキアカネ雄1(西)を採集した。

他の昆虫類としては*Sigara* sp. (コミズムシ属の一種)雌1(東)を採集したが、雌のため同定がで

表1 判官堂湿原で記録動物

昆虫綱 Insecta	トンボ目 Odonata	イトトンボ科 Agrionidae	キイトトンボ <i>Ceriagrion melanurum</i> Selys エゾイトトンボ <i>Coenagrion lanceolatum</i> (Selys)	
		アオイトトンボ科 Lestidae	アオイトトンボ <i>Lestes sponsa</i> (Hansemann)*	
		ヤンマ科 Aeschnidae	ルリボシヤンマ <i>Aeschna juncea</i> (Linnaeus) オオルリボシヤンマ <i>Aeshna nigroflava</i> Martin*	
		エゾトンボ科 Corduliidae	カラカネトンボ <i>Cordulia aenea amurensis</i> Selys	
		トンボ科 Libellulidae	アキアカネ <i>Sympetrum frequens</i> (Selys) ネキトンボ <i>Sympetrum speciosum speciosum</i> Oguma* カオジロトンボ <i>Leucorrhinia dubia orientalis</i> Selys	
	カメムシ目 Hemiptera	セミ科 Cicadidae	エゾハルゼミ <i>Terpnosia nigricosta</i> (Motschulsky)* コエゾゼミ <i>Tibicen bihamatus</i> (Motschulsky)*	
		アメンボ科 Gerridae	ヒメアメンボ <i>Gerris latiabdominis</i> Miyamoto*	
		ミズムシ科 Corixidae	コミズムシ属の1種 <i>Sigara</i> sp.*	
		マツモムシ科 Notonectidae	マツモムシ <i>Notonecta (Paranecta) triguttata</i> Motschulsky*	
		ゲンゴロウ科 Dytiscidae	ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus suturalis</i> (Macleay)* ハイイロゲンゴロウ <i>Eretes sticticus</i> (Linnaeus) キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i> (Sharp) ギンモンミズメイガ <i>Nymphula corculina</i> (Butler)*	
コウチュウ目 Coleoptera	ガムシ科 Hydrophilidae	キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)		
チョウ目 Lepidoptera	ツトガ科 Crambidae	ギンモンミズメイガ <i>Nymphula corculina</i> (Butler)*		
両生綱 Amphibia	サンショウウオ目 Caudata	サンショウウオ科 Hynobiidae	クロサンショウウオ <i>Hynobius nigrescens</i> Stejneger*	
	カエル目 Salientia	イモリ科 Salamandridae	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i> (Boie)	
鳥綱 Aves	アマツバメ目 Apodiformes	アオガエル科 Rhacophoridae	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i> (Okada et Kawano)	
		アマツバメ科 Apodidae	アマツバメ <i>Apus pacificus</i> (Latham)	
		ミンサザイ科 Troglodytidae	ミンサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i> (Linnaeus)	
		ウグイス科 Sylviidae	ウグイス <i>Cettia diphone</i> (Kittlitz)	
		シジュウカラ科 Paridae	ヒガラ <i>Parus ater</i> Linnaeus シジュウカラ <i>Parus major</i> Linnaeus*	
	スズメ目 Passeriformes	ホオジロ科 Emberizidae	クロジ <i>Emberiza variabilis</i> Temminck*	
		アトリ科 Fringillidae	ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i> (Linnaeus)* イカル <i>Eophona personata</i> (Temminck & Schlegel)*	
		カラス科 Corvidae	カケス <i>Garrulus glandarius</i> (Linnaeus)* ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i> (Linnaeus)	
		ネコ目 Carnivora	イヌ科 Canidae	タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i> (Gray)*
		ウシ目 Artiodactyla	ウシ科 Bovidae	カモシカ <i>Capricornis crispus</i> Temminck*

*2008年に新たに確認できた種

きていない。ハイイロゲンゴロウは雌1(東)を採集した。本種は飛翔力が強く低地から高標高地まで広範囲に見つかっているが(石川むしの会・百万石蝶談会, 1998), 当湿原に定着している可能性は低い。キベリヒラタガムシは成虫8(東, 西)を採集し, より水深のある西方の湿原で個体数が多かった。ギンモンミズメイガは雄3・雌2(東)を採集した。本種はヒルムシロ属を食草とするが, 見つかった東方の湿原にはヒルムシロ類がないので他の水生植物を食しているものと思われる。他にマツモムシ成虫2・幼虫6(東, 西), ヒメアメンボ雄1(西), ヒメゲンゴロウ雄1(西)を採集した。またエゾハルゼミとコエゾゼミの声を記録した。両生類ではクロサンショウウオの卵塊10+(西), アカハライモリ1(東)とモリアオガエル3(東), 鳥類ではアマツバメ, ウグイス, ヒガラ, シジュウカラ, クロジ, ウソ, イカル, カケス, ホシガラス, 哺乳類ではタヌキとカモシカの足跡を確認した。

まとめ

今回の記録と上馬・佐川(2007)の記録をあわせて示すと表1のとおりとなり, このなかで学名の後に*印を付したのが2008年に新たに確認できた種である。トンボ目でエゾイトトンボ, アオイトトンボ, ルリボシヤンマ, オオルリボシヤンマ, カラカネトンボ, カオジロトンボのように寒冷地あるいは高冷地の池塘に生息する種が多いことは当湿原の特徴をよく表していると言える。このうちカオジロトンボとカラカネトンボの2種は福井県からも記録されているが(福井県自然環境調査研究会昆虫部会, 1998), 石川県の当湿原が日本の分布西限である。他の水生昆虫は, いずれも県内の低地から低山地に比較的広く分布する種であった。前回を含め調査は水生昆虫を中心として7月の同じ時期に2回行っただけであり, 当湿原の動物相の解明には今後秋期を含めた他の季節の調査が重要である。

調査した判官堂湿原の湿原としての分類は上馬・佐川（2007）ではできていなかったが、東方の湿原は全体が周辺部より盛り上がっていてその中に池塘があること、水の供給源が雨水のみであること、泥炭層の深いことから、高層湿原と判断された。石川県内で初めて確認された高層湿原となる。

文 献

- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会（1998）福井県昆虫目録（第2版）. 556pp. 福井県県民生活部自然保護課.
- 石川むしの会・百万石蝶談会（1998）石川県の昆虫. 537pp. 石川県環境安全部自然保護課.
- 富沢 章（2001）白山におけるカオジロトンボの撮影記録. とっくりばち, **68**, 27-28. 石川むしの会.
- 上馬康生・佐川貴久（2007）白山判官堂湿原のトンボ類を中心とする動物相. 石川県白山自然保護センター研究報告, **34**, 31-33.